



メルボルン日本人学校

喘息に関する方針

本方針に関するご質問は学校事務(03-9528-1978)までお問い合わせください。

目的

メルボルン日本人学校(JSM)が喘息の診断を受けている児童生徒に対し適切な支援を提供するため。

ねらい

JSMの保護者・監護者、教職員、児童生徒に、喘息と診断されている児童生徒を支援するために定められている対応策や手順を説明する。

適用範囲

本方針の適応範囲は以下の通りである。

- 代替臨時教諭、ボランティアを含む全教職員
- 喘息の診断を受けている全児童生徒、または喘息の緊急処置を必要とする可能性のある児童生徒およびその保護者・監護者

方針

喘息

喘息は、慢性的な肺疾患である。喘息を持っている人の気道は過敏であり、冷氣、運動、花粉などの発作の誘因(トリガー)に反応しflare up(フレアアップ:喘息の発症)を誘発する。フレアアップが起きている間、気道の周囲の筋肉が収縮し、気道が腫れて狭窄し、粘液が多くなる。それにより呼吸苦を引き起こす。フレアアップは、時間をかけて(数時間、数日、数週間かけて)起こる場合と、短時間(数分以内で)で起こる場合がある。急に起こる喘息や重篤なフレアアップを時として「喘息発作」と呼ぶ。

症状

時により喘息の症状は異なる上、多くの場合個人差がある。もっとも一般的な喘息症状は次の通り。

- 息切れ
- 喘鳴(胸からヒューヒューという音が鳴る)
- 胸が苦しい感覚
- 持続性の咳

症状は、夜間、早朝、運動中またはその直後に起こることが多い。喘息がよく管理されている患者の場合は、稀に喘息症状が出るだけである。

トリガー

トリガーとは、喘息症状を誘発または引き起こすものである。喘息を持っている人にはそれぞれ異なるトリガーがある。多くの喘息を持っている人にとってのトリガーは、喘息が薬品で管理されていないときのみ問題となる。一般的な喘息トリガーは次のとおり。

- 運動
- 煙(たばこ、薪の燃焼、野焼き、山火事)
- チリダニ
- 花粉
- 家庭用洗剤やエアロゾル
- 食品添加物
- 風邪、インフルエンザ
- 雷雨や寒気、空気の乾燥などの気候変動
- カビ
- 動物の毛 例:猫、犬
- 脱臭剤、香水、アフターシェーブ製品
- アスピリン、抗炎症剤などの特定の薬品
- 感情の動き 例:笑い、ストレス

喘息管理

喘息と診断された児童生徒がJSMに入学する場合、以下の手順が踏まれる必要がある。

1. 保護者・監護者が児童生徒のかかりつけ医により記入されたAsthma Action Plan(喘息アクションプラン)を学校に提出する。そこには下記事項が明示されている必要がある。
 - 児童生徒が服用する処方薬、服用時間。例えば運動前の服用、定期的な服用など。
 - 緊急時連絡先
 - 児童生徒のかかりつけ医の連絡先
 - 児童生徒の既知トリガー
 - フレアアップまたは喘息発作が起きた際の緊急対応手順
2. 保護者・監護者は喘息アクションプラン用に児童生徒の顔写真を掲載すべきである
3. JSMはすべての喘息アクションプランを次の場所に保管する
 - 職員室
4. 児童生徒の喘息の病状や処置要件に変更が生じた場合には、保護者・監護者は学校に通知し、改訂版の喘息アクションプランを提出する。
5. 毎年、年度初めに、学校教職員は保護者・監護者と共に喘息アクションプランおよびメディカルレコードの再評価を行う。

児童生徒喘息キット

喘息と診断された全児童生徒は、下記を含む児童生徒喘息キットを毎日学校に持参する必要がある。

- 記名済の処方吸入器(発作治療薬)
- スペーサー(吸入補助器:使用する場合)

喘息キットは教室に保管する。吸入器は児童生徒自身が携帯することを推奨する。

喘息応急処置手順

児童生徒が次の状態のとき、本校は喘息応急処置手順を実施する。

- 喘息発作が起きている
- 喘息の診断はないが、原因不明の呼吸困難を訴えている

学校教職員は、下記の喘息応急処置手順表に従い実行する努力をする。学校教職員がトリプル・ゼロ「000」番に緊急通報を行う場合もある。

手順	行動
1.	上体を起こし座位にする <ul style="list-style-type: none">● 落ち着いた態度で患者を安心させる● 患者をひとりにしない● 他の教職員が信頼できる児童生徒に依頼し、当該児童生徒の吸入器、緊急喘息キット、喘息アクションプラン（もしあれば）を持って来てもらう。● 当該児童生徒の喘息アクションプランがすぐに見当たらない場合は、手順2～5の喘息応急処置手順に従う
2.	青または青とグレーの吸入器で呼吸を4回させる <ul style="list-style-type: none">● 吸入器をよく振る● スペーサーがある場合は使用する● スペーサー内にひと押しする● スペーサー内で息を吸って吐く呼吸を4回行う 覚え方：振って、ひと押し、呼吸4回
3.	4分間待つ <ul style="list-style-type: none">● 改善が見られない場合は、上記のとおり青とグレーの吸入器で呼吸を4回させる (もしくはBricanylまたはSymbicort吸入器をもう一回分投与)
4.	まだ改善が見られない場合はトリプル・ゼロ「000」番に通報し救急車を要請する。 <ul style="list-style-type: none">● オペレーターに児童生徒が喘息発作を起こしている旨を伝える● 救急車が到着するまで4分おきに4回の呼吸で吸入薬を与え続ける(もしくは、BricanylまたはSymbicort一回投与分を4分おきに与え続ける。Symbicortの投与は3回まで。)
5.	喘息応急処置実施後に喘息が改善した場合は、処置を止め、患者を観察する。該当児童生徒の緊急連絡先に連絡をし、また発生事実を記録する。

教職員は以下の状態のときはただちに「000」番に通報する。

- 患者が呼吸をしていないとき
- 患者の喘息が急に悪化した場合、または改善が見られないとき
- 患者が喘息発作を起こしているが吸入器が無いとき
- 喘息症状であるか不確かなとき
- 患者にアナフィラキシーの持病があるとき

教職員の研修

校長には、全教職員が喘息対応の研修を適切に修了させる責任がある。研修の受講までに下記いずれかの事項を修了している事が求められる。

- 認定喘息対応研修の対面コースを過去3年以内に受講している
- 認定喘息対応研修のオンラインコースを過去2年以内に受講している

JSMは教職員に下記事項について年一回の説明会を実施する。

- 本方針掲載の手順
- 喘息の原因、症状、処置
- 喘息の診断を受けている児童生徒
- 吸入器およびスパーサーの使用方法
- 以下の保管場所
 - 緊急喘息キット
 - 児童生徒の使用のために保護者から提出されている喘息薬

JSMは、児童生徒の指導に当たる臨時代替教職員、ボランティアにも本方針を提供する。仕事の種類に応じて、校長が必要と判断した場合には、臨時教職員にも説明する。

緊急喘息キット

JSMは緊急喘息キットを最低2つ保持する。ひとつは校内の保健室に保管され、もうひとつは次のような活動の際の携帯用キットとなる。

- 監護
- 宿泊学習、校外学習時

緊急喘息キットの内容

- 青、または青とグレーの吸入器(Airomir、Admol、Ventolinなど)、最低1つ
- 青、または青とグレーの吸入器の効果的な吸引のため、一名使用タイプのスパーサー、最低2つ (JSMが補充のための予備のスパーサーを確保する)。スパーサーは保健室に保管。

ファーストエイド担当者が緊急喘息キットの管理を以下の方法で行う。

- 内容物が全て揃っている事を確認し、必要に応じて補充を行う
- 定期的に青、または青とグレーの吸入器の缶部分の使用期限を確認し、期日を過ぎていたり残量が不十分の場合は交換する
- キット内のスパーサーは使用後に交換する(スパーサーの使用は患者一名まで)
- 使用済みスパーサーは廃棄する

緊急喘息キット内の青、または青とグレーの吸入器は、スパーサーを用いて使用された場合は、複数の児童生徒に使用しても構わない。吸入器が口に直接接触した場合には、二人目への使用をさせず廃棄する。

スパーサーと共に青、または青とグレーの吸入器を使用した後は次の手順を踏む。

- 吸入器から缶部分を取り外す(缶部分は洗わない)
- プラスチックのケース部分を洗う
- マウスピースの中に水を最低30秒間流し、洗い流す。
- マウスピースカバーを洗う
- 自然乾燥させて組み立てる
- 吸入器に水が残っていないことを点検し、緊急喘息キットに戻す

部外秘医療情報の管理

喘息のある児童生徒の支援を目的としてJSMに提供された部外秘の医療情報は下記の通り扱う。

- 児童生徒のファイルに記録
- 喘息の診断を受けている児童生徒を必要なときに適切に支援できるよう関連する教職員と共有

周知プラン

保護者やその他学校関係者が容易にJSMの喘息管理手順の情報にアクセスができるよう、本方針をJSMホームページに掲載する。

伝染性雷雨喘息

伝染性雷雨喘息の発生確率が高い予報が出た場合には、JSMは対応の準備を行う。

関連する方針および資料

- [アナフィラキシーに関する方針](#)
- [児童生徒の投薬に関する方針](#)
- [注意義務に関する方針](#)

承認

作成日	2024年11月
審議	教職員、学校運営委員会
承認者	学校運営委員会
承認日	2024年11月
再評価予定日	2026年11月

本方針は英語で作成され、日本語版はあくまで参考として翻訳されています。英文版が正本である為、これら両言語版の間に矛盾抵触がある場合は英文版が優先されます。